

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5580m 以下の -18°C 以下の寒気を伴う寒冷渦が日本海中部をゆっくり東進、対応して日本海中部を東北東進する低気圧からシアーラインが東日本にのびている。東～北日本では、千島の東に中心を持つ高気圧の縁を回る湿った東風が吹いており、大気の状態が非常に不安定となっている。東海地方では1時間に50mm以上の非常に激しい雨を解析。関東東地方や北陸地方では、1時間に40mm以上の激しい雨を解析。東日本では多数の雷やメソサイクロンを検知。



主要じょう乱解説図

② 華南から日本の南を通して、日本のはるか東へ前線がのびており、華南付近では熱帯低気圧から変わった温帯低気圧が前線上を東北東進。前線に向かって南から流れ込む下層暖湿気の影響で、南西諸島では大気の状態が非常に不安定となっており、先島諸島の近海では雷を伴い1時間に20～40mmの雨量を解析、メソサイクロンを検知。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 1項①の寒冷渦は、3日にかけて日本海をゆっくり東進し、北日本へ進む。寒冷渦に対応する低気圧は、3日にかけて日本海を東北東進し、低気圧からのびるシアーラインが東～北日本を通過する。上空の寒気と低気圧やシアーラインに向かう湿った空気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨や激しい雨が降り、大雨となる所がある。東日本～北日本では3日にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。

② 2項①の低気圧は、3日午後には北日本に進んで不明瞭となるが、3日夜には三陸沖に別の低気圧が発生する。この低気圧と千島の東に中心を持つ高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、北日本の太平洋側では3日は、強い風が吹き、波が高くなる所がある。強風や高波に注意。

③ 1項②の低気圧は、3日朝にかけて先島諸島付近を東進。前線や低気圧に向かって850hPa θ e345K以上の下層暖湿気が流入、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。南西諸島では3日にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。また、低気圧や前線と華中付近の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。南西諸島や西日本では3日にかけて、強風や高波にも注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：沖縄150、東北100mm。②波浪(明日まで)：東北・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を17時頃発表予定。